



離島も含めた公私立小・中・高校

平成 28 年 9 月 28 日  
沖縄県がん診療連携協議会  
普及啓発部会

## 平成 28 年度 養護教諭 5 年 10 年経験研修

### 概要

開催日時：平成 28 年 8 月 3 日（水）9:30 ～ 11:30  
8 月 4 日（木）10:30 ～ 12:00

テーマ：「がんの総論について」  
「小児がんについて」  
「おきなわ小児がん相談支援マニュアルについて」

講師：増田 昌人  
(琉球大学医学部附属病院がんセンター長・診療教授)  
百名 伸之 先生  
(琉球大学医学部附属病院骨髄移植センター長)  
石郷岡 美穂 氏  
(琉球大学医学部附属病院地域医療部・医療福祉支援センター 主任MSW)

主催：沖縄県立総合教育センター  
共催：沖縄県がん診療連携協議会 普及啓発部会  
琉球大学医学部附属病院がんセンター

場所：沖縄県立総合教育センター（沖縄市）

参加者数：24 人

### 講演の様子

がん診療機能別	人数
小学校 養護教諭	9 人
中学校 養護教諭	1 人
小中学校 養護教諭	0 人
高等学校 養護教諭	10 人
特別支援学校 養護教諭	2 人
合計	24 人

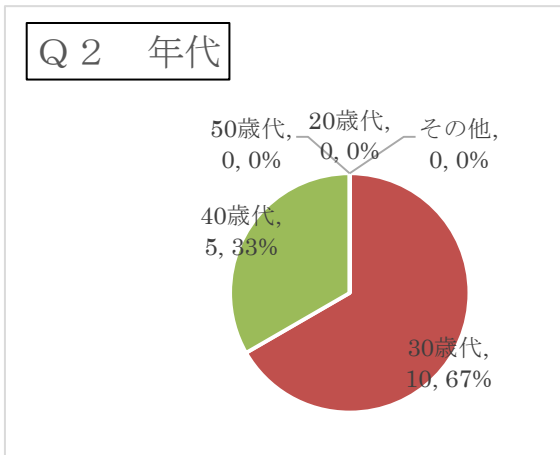




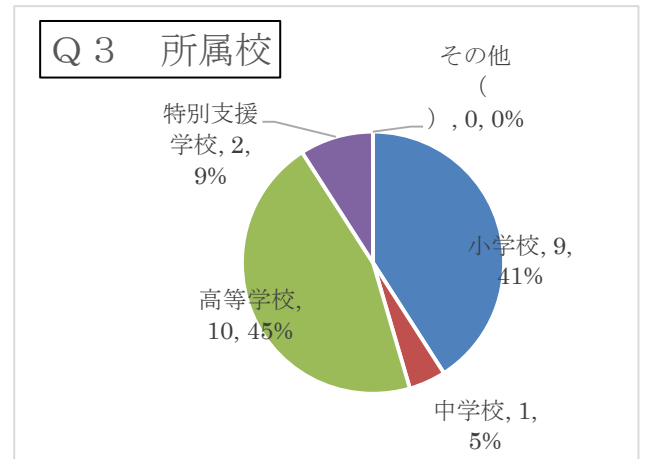
## 講演のアンケート結果（回答者 22 名）

### I. 受講者ご自身について

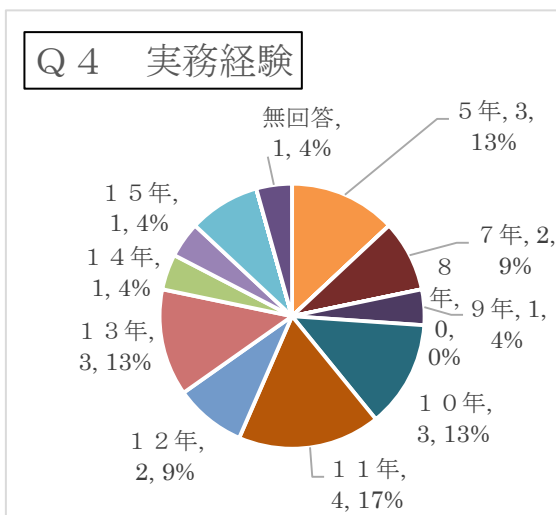
#### Q 2. 年代について



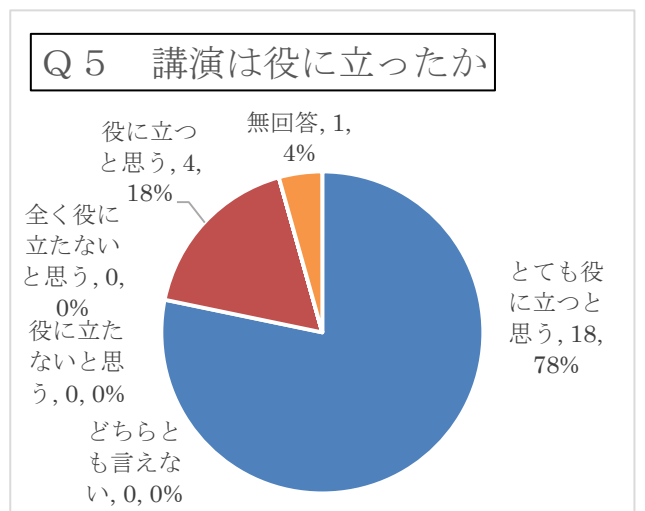
#### Q 3. 所属する学校について



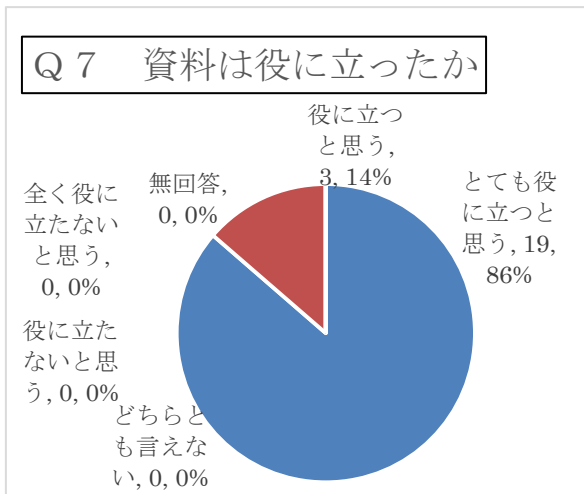
#### Q 4. 実務経験について



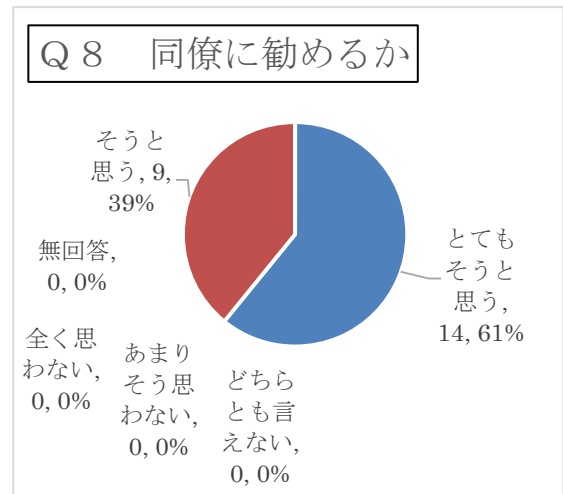
#### Q 5. 講演について



### Q 7. 資料は役に立ったか？



### Q 8. 同僚に勧めるか



### Q 9. 講演に関するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

- ・本校の児童に親をがんで亡くしたケースがあり、どう関わって良いのか今でも悩んでいるので、資料を沢山いただいたので、勉強したいと思います。貴重な講話でした、ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。とても勉強になりました。
- ・「がん」と一言と言っても、ステージ、部位、家族構成、背景などは様々で、その伝え方、サポート方法なども違いが出てくることを知ることができて良かったです。相談支援マニュアル、がんサポ、その他資料もとても参考になりました。
- ・実務経験の中でがんについて考える・対応する時間がなかったのですが、今回がんについて講演を聞いて、がん相談支援センターがあること、また患者だけでなく支援者向けのマニュアルがあることを知り、是非活用していきたいと思います。
- ・がんについて聞く機会がなかったので、聞くことができて良かった。実際に闘病中の児童がいるので、校内の研修にも来ていただけたらと思った。ありがとうございました。
- ・「スピードが命」という言葉がとても印象的でした。抱え込まずに、サポートセンターに電話することを支援していきたいです。
- ・がんについての情報が、これまでは、あいまいな部分が有ったが、正確な情報を知ることが出来た。今後、サポートハンドブックや、相談支援マニュアルを活用していきたい。
- ・教員は、がん患者をサポートする人たちをサポートする立場にもあるということを知ることができて良かったです。声をかけたり、話を聞いたりすることしかできなかったのですが、それで良いということがきけてとてもよかったです。ありがとうございました。
- ・増田先生、美穂先生の講義、とてもよかったです。（2人のやさしさもとても伝わりました。）様々な支援があるということがわかりました。
- ・祖父母や叔母もがんで亡くなった時期があるので、私自身がんについてはとても気になる病気の一つだったので、色々なお話を聞いてよかったです。ありがとうございました。

・生徒の家族や状況について把握していても、具体的にどうサポートをしていけばいいのかわかっていなかったのも、たくさんの資料やがん相談支援センターがあることがわかったので、周囲にも知らせていきたい。

・県内の状況を知ることができて、本当に身近な問題であることを認識しました。ありがとうございます。

・がんは当事者だけの問題ではなく、その方を支える家族、その家族を支える社会の問題だと考えました。

・がんの治療を終えて経過をみながら登校している生徒が校内にいるため、そのサポートがどのようにされているのかということがわかり、改めて、家族への支援についても考えさせられました。また、高校生の1/2ががん患者の家族になりうることについて、正しい知識をもって、その家族を受け入れられるようながん教育が必要だと思いました。小児がんについては、ほとんどが治癒するものですが、治療後の晩期合併症について細かく知ることが出来て良かったです。二次がんの発症についても一般の発症率より高いことを知り、治療後の環境設定についても今後配慮していきたいと思いました。細かな講義、たくさんの資料提供、ありがとうございました。

・まず、がんは身近な病気であり、必ず、勤務校にも支援が必要な児童がいるということを実感していきたい。家族や本人が病気になった際の精神的なサポートができるためには相談してもらえ人間関係づくり環境づくりがポイントとなってくると思うので、自分自身の人間性、人格をみがいていきたい。また、相談機関を知る事で、支援の幅が広がり、よりよい支援ができるので、今日いただいた資料を大切に保管しておきたい。

・養護教諭として、自分の家族、また、自分が親だったら・・・と色々な立場から考えさせられました。子供だけでなく、保護者へも情報提供することで支援することが出来ると知り、良かったです。

・生徒にとっても、「がん」という病気が身近であることを実感しました。がん患者だけでなく、患者の家族をサポートする支援機関が多数ある事を初めて知りました。必要な生徒に、正確な情報を伝えていく事の大切さ、話を聞くだけで十分気が晴れるということが分かりました。

・がんは身近にあるんだなと思いました。小児がんについては、サポート体制もしっかりしているが、成人のがん患者やその家族のサポート体制の情報も提供できたらいいなと思いました。

・セカンドオピニオンについて、医師からも患者さんへ話しているというのがとても意外でした。患者さんへの告知についての話しの中で、患者さんの立場を考え、伝え方に配慮されているということだったので、どんな場、状況でも、”人間と人間“”思いやりの大切さ“などに気付かされました。忙しいイメージがある医療機関においても外部との連絡を必要としていたり、実際の学校現場においても外部との連携を必要としていたり、困っている人を助けたいという思いが伝わってきました。まず、自分に出来ることは何か考えてみたいと思います。

・インターネットの情報で推奨できるものがわずかだという事を知って驚いています。私が気付いていないか情報を得ていないだけで、がんやがんの患者・家族に関わっている生徒が半数にも及ぶ事を初めて知りました。今回の講演や頂いた冊子を読んで、今後直面した際に活用し、支援できればと思いました。

**Q10. 今後、取り上げてほしいテーマがあれば、教えてください。**

- ・がん患者の家族等の声かけ方法や支援方法を事例検討やロールプレイ等で体験してみたい
- ・学校での具体的なサポート方法など
- ・教育支援について、くわしく知りたいです。

**所感**

実際の学校現場で、保健室の先生として、毎日児童生徒の体調管理や保健指導をされている養護教諭の先生方の研修会であった。実体験にもとづいた質問があった。

- ・森川特別支援学校について
- ・児童・生徒への声かけについて
- ・養護教諭、保健室の先生として、がん遺児やきょうだい児へのフォローについて
- ・学校と医療機関との連携について

養護教諭の先生方から現場の声を聞き、がん診療や相談支援に関して、今後は、医師と各学校との連携、医師と養護教諭の先生方との連携、さらに部会としても「がん教育」の学校現場での授業などについて検討、構築していく必要がある。